

## おじいさんとベンチ



年 組 ( )

「行ってきます！」

1時30分。ユウヤは、バスていに向<sup>む</sup>かって出かけた。今日は友達<sup>ともだち</sup>の Kouuta とプールへ行くのだ。バスに乗<sup>の</sup>って、2時にプールへ集<sup>しゅうごう</sup>合することになっている。

途<sup>とちゅう</sup>中の道で、おじいさんがうずくまっているのが見えた。

「おじいさん、だいじょうぶですか。」

「ちょっとな——、こしがいたくて——。」

「ぼくのかたにつかまってください。」

ユウヤは、かたをかした。しかし、思ったよりも重<sup>おも</sup>い。

子どもの力でささえきれものではなかった。

でも、この道は人通りも少ないので、しばらく大<sup>おとな</sup>人が通ることみなさそうだ。

家の人や Kouuta に連<sup>れんらく</sup>絡しようかとも思ったが、あいにく今日は連<sup>れんらく</sup>絡できるものを持<sup>も</sup>ってきていない。

「あのベンチまで——、連<sup>つ</sup>れていってくれるかな——。」

おじいさんは、道の先にあるベンチを指<sup>ゆび</sup>さした。

ベンチは、かなり遠い。そこまで連<sup>つ</sup>れていくなれば、きっとバスには乗<sup>の</sup>れないだろう。

その次のバスが来るのは、30分後だ。

「おじいさん、あのう——。」

「すまんなあ。こんな、小さな子にめいわくをかけるなんて——。」



ユウヤは、どうするべきでしょうか。あなたの考えと理<sup>りゆう</sup>由を書きましょう。

.....

.....

話し合<sup>あ</sup>って考えたことを書きましょう。

.....

.....